

増設多核種除去設備

共沈タンクB用pHスキッド廻りからの漏えいについて

2018年5月31日

東京電力ホールディングス株式会社

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

TEPCO

概要及び時系列

1

■ 概要

- 平成30年5月17日、増設多核種除去設備（増設ALPS）建屋内の共沈タンク周り（共沈タンク（B） pHスキッドのドレンライン）で水溜りを確認。
- 水溜りは増設多核種除去装置建屋の共沈タンク pHスキッド（B）内に留まっており建屋外への流出はない。
- 平成30年5月18日、バイパス流量調整弁のグラウンド部からの滲みを確認。
- グラウンド部の締付を行い、滲みが停止したことを確認した。

■ 時系列

【5月17日】

13：09 共沈タンク（B） pHスキッドのドレンラインの保温材に水滴、下部に水溜りを確認

漏えい範囲：約 50 cm × 50 cm × 1 mm（堰内）

14：30 漏えい水は、「ALPS前処理過程のストロンチウム処理水」と判断

pH：アルカリ 塩分0.1%

15：14 当社社員により拭き取りが完了。漏えい受けを設置。

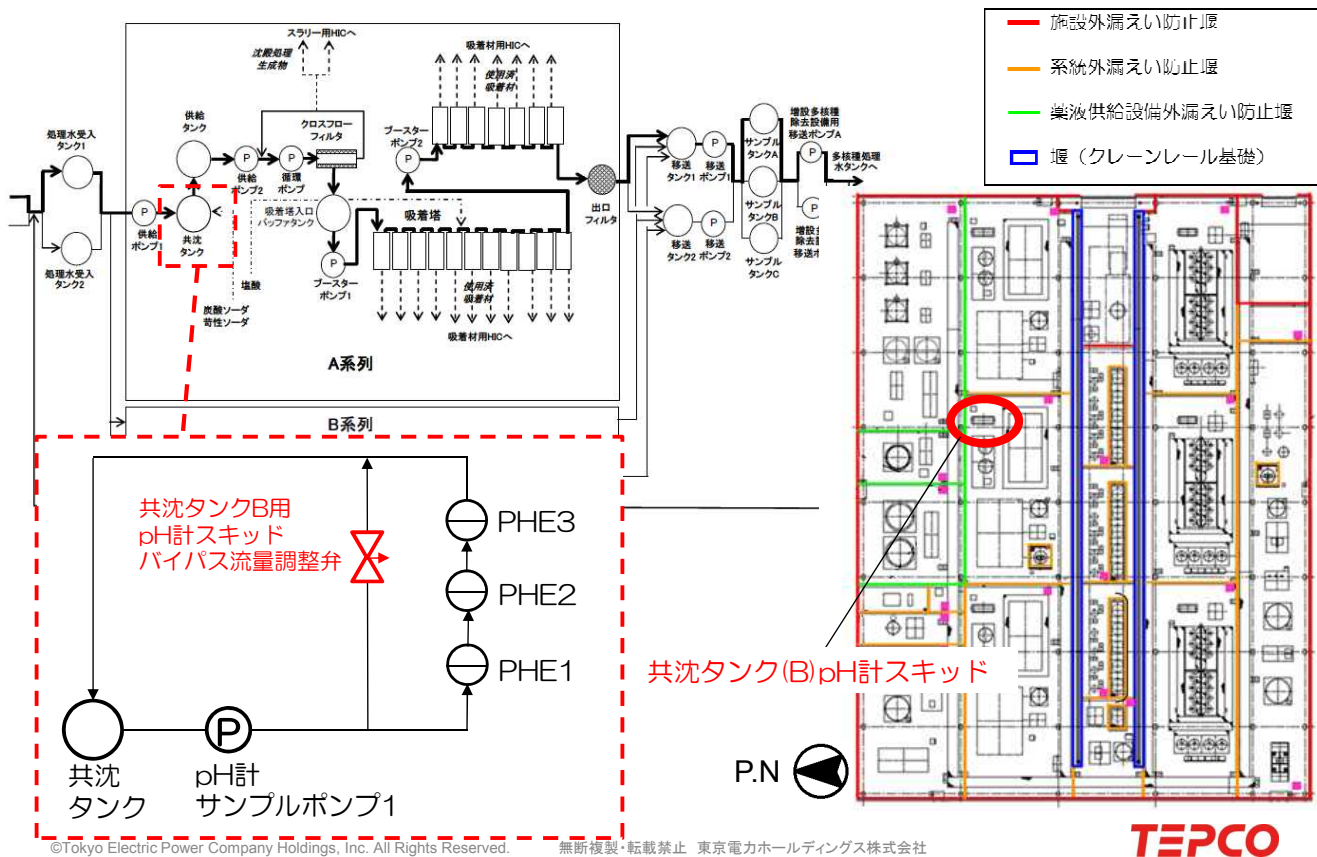
【5月18日】

10：00 漏えい箇所を特定。グラウンド部の締付を実施し、滲みの停止を確認。

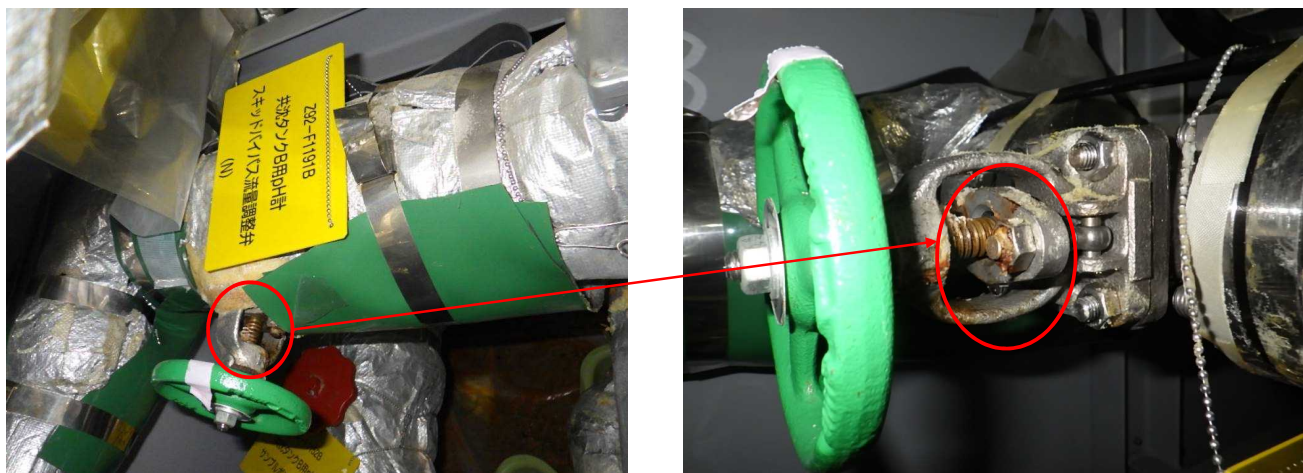
©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

TEPCO



■ 滴下状況



滴下箇所（共沈タンクB用pH計スキッドバイパス流量調整弁 グランド部）

■ 今後の対応

- 当該弁についてはこれまで未点検となっていたため、類似箇所の調査およびグランド部締付を実施
- 巡視にて確認し難くなっていたグランド部の見える化を実施（グランド部の保温撤去）必要に応じて定期的にグランドの増締を行う。